



保護者の皆さんのおかげさんで、素敵な運動会になりました。感謝！感激！です。

「失敗してもあきらめない」といえる強さを持ちたい

ちょっと前、5年生の子どもたちが「なりたい自分」をつづったすてきなお手紙を書いてくれました。全員素晴らしい「なりたい自分」をもっていることに、心から感動。その中から、ちょっとだけ紹介したいと思います。紙面の都合で全員紹介できず、ごめんなさい。

「失敗してもあきらめない」

「勇気のある自分になりたい」

「人の気持ちを考える自分になりたい」

すごい…本当にすごい。

もともと、なりたい自分は自分の心の中にある、とっても柔らかいものですね。その柔らかい（本当は出したくないものかもしれない）ものを表現すること自体が、実はとっても難しいものです。5年生の子どもたちが、その自分の中にある柔らかいものをしっかり見つめ、とても丁寧な字でつづってきたこのお手紙だからこそ、私の心を揺さぶるのでしょう。そんな5年生の学年テーマは、「自らアクション」。なりたい自分を超えて、なりたい学校を作ってくれる高学年になってくれるものだ、ワクワクしてきました。

そんなときに、とあるテレビ番組を拝見していると、驚く発言が聞こえてきました。

「僕の失敗体験を奪わないでほしい」

聞きなれない言葉の響きに、驚かされます。失敗体験を奪わないでほしい？この発言の主は、実は若年性認知症患者の方です。みきさん（仮名）は、次のように述べられました。

自分のやったことなどが“零れ落ちるように忘れてしまう”現実に向き合うために、成功体験が必要です。その成功体験を生み出すものが、失敗体験。病気になってから、たくさんの方が配慮してくれるので、失敗がないように、転ばぬ先の杖をたくさんつけている。だから、僕の失敗体験がなくなり、ある意味その先にある成功体験が失われている。失敗してもいいんです。むしろ、その成功体験がないと、僕は生きていけない。何に自信をもって生きていけばいいのか…。だから、失敗体験を奪わないでほしい。失敗をさせてください。

絶句…

テレビ画面の先で明るく述べられるみきさんの独白に、私は本当の強さとは何かを学んだような気がしました。そして、強い反省の念を持ちます。失敗をしそうな子どもたちを見ると、どうしても手を出してしまいがち。それは、もしかしたら、この子の成功体験まで奪ってしまっていたかもしれない。そのことに、無頓着すぎたのではないだろうか。

もちろん、させられない失敗はあります。その逆に、したほうが良い失敗もある。その見極めこそが、大人のたしなみなのかもしれませんね。

